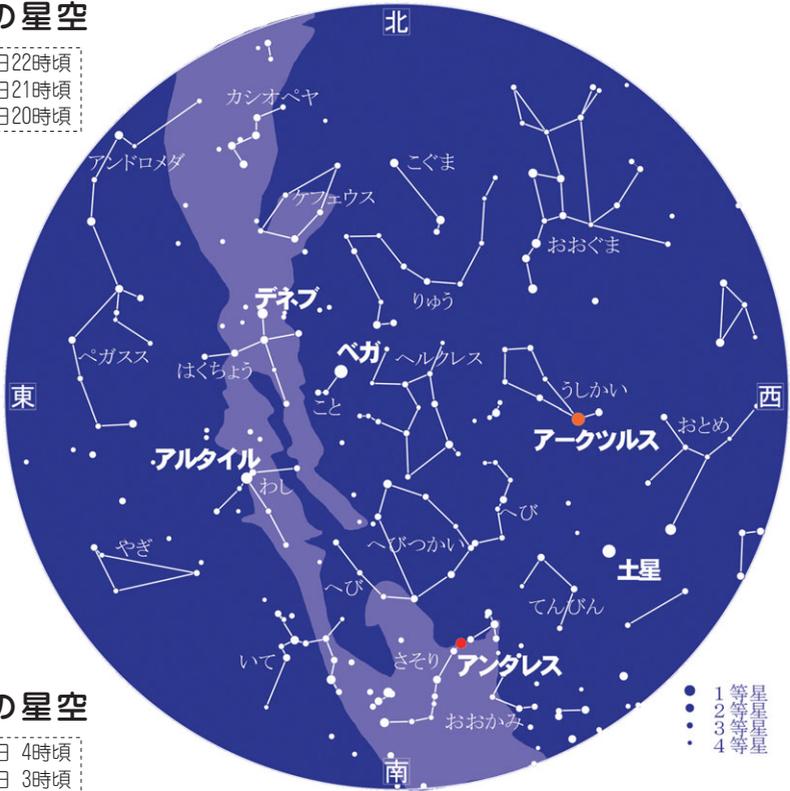




★星空ガイド 7月16日～8月15日

よいの星空

7月16日 22時頃
8月 1日 21時頃
15日 20時頃



あけの星空

7月16日 4時頃
8月 1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

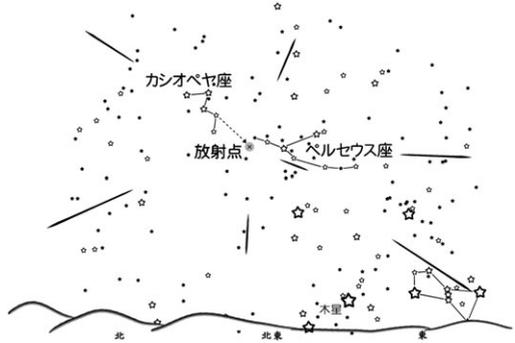
月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
7	16	火	4:56	19:11	12:19	23:32	7.8
	21	日	4:59	19:08	17:35	3:01	12.8
	26	金	5:02	19:05	21:13	8:45	17.8
8	1	木	5:07	19:00	0:19	14:34	23.8
	6	火	5:11	18:55	4:28	18:11	28.8
	11	日	5:15	18:50	9:12	20:57	4.2
	15	木	5:18	18:46	13:20	23:49	8.2

※惑星は2013年8月1日の位置です。

<ペルセウス座流星群が極大>

毎年活発な活動を見せるペルセウス座流星群が、8月13日3時に極大となります。13日の明け方を中心に、空を眺めていれば、たくさんの流れ星を見ることができでしょう。

流星群の流星は、「放射点」から四方八方に放射状に流れます。ペルセウス座流星群は、放射点がペルセウス座に位置していることから、ペルセウス座流星群と呼ばれますが、別にペルセウス座に多く流星が現れるわけではありません。流星そのものは空のどこにでも現れますので、自分の観察しやすい方角を観察してください。



<スピカ食>

8月12日の夕方、おとめ座のスピカが月に隠される、という現象が起こります。スピカが月の向こう側に隠れる時刻は18:40ですが、この時刻はまだ日没前なので、望遠鏡を使わないと、スピカを見つけることはできないでしょう。

月の向こう側からスピカが現れるのは、19:24ですが、月の明るい縁から星が現れるので、望遠鏡を使ってそれなりに倍率を高くておかないと、スピカが現れた瞬間には気づきにくいでしょう。

スピカが隠れる瞬間や、現れる瞬間の観察はちょっと難しいですが、スピカが現れた後は、月が沈むまでの間、だんだん月とスピカが離れていく様子が双眼鏡でも簡単に観察できます。月が動いている、ということを実感できる現象ですので、見たことがない方は、一度注目してみる価値があるでしょう。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
7	16	火	●上弦(12時)
	22	月	火星と木星が約0.8°まで接近 金星としし座のレグルスが約1°まで接近
	23	火	○満月(3時)/大暑
	29	月	みずがめ座δ流星群が極大の頃
	30	火	●下弦(3時)/水星が西方最大離角(明け方東の空)

月	日	曜	主な天文現象など
8	4	日	明け方東の空で月と木星が約4.5°離れて並ぶ
	7	水	●新月(7時)/立秋
	12	月	スピカ食(18:40~19:24)
	13	火	旧七夕/夕方西の空で月と土星が約4°離れて並ぶ ペルセウス座流星群が極大(3時)
	14	水	●上弦(20時)

飯山 青海(科学館学芸員)